「正さ」とは何か
20260613

バスの中でのこと→若者がシニアの女性に席を譲るべく立ち上がった

シニアの女性は断り、その席は空いたままとなった→何か割り切れない思い→気まずい雰囲気

若者は「良いこと」をしようとして立ち上がった

シニアの女性は年寄り扱いをされたことを心外に感じた

「個人の正しい」と「社会の正しい」とのずれ

それぞれに行為は正しい、間違っていない

正しいか正しくないかという設定自体がおかしい

どちらが正しいかは決められない

若者の好意を感じ座ることがシニアのとる態度としては妥当

正しいの反対語はない、ともに正しい

若者は善意で行動

状況により正しくもなり不正にもなる

エチケットの問題でもある

「正さ」とは自分は正しいという考え方、人それぞれ

考え方、価値判断の違い→バトル

何でもあり→本当に正しいとは何か

正しいことがなかったら社会は成り立たない

1 事実に合っているか

2 規準や規範にかなっているか

3 筋道が通っているか

ロビンソン・クルーソーのように無人島に一人

一人の独断だけでものごとが済む

人間存在は複数の人間が関係して起こること

酒飲みだが仕事ができるor仕事ができるが酒飲みだ→同じ意味だが語尾で印象が変わる

ユダヤ・キリスト教、仏教など宗教の教祖→いちばん元のルール→神の命令として信じる

物語によって世界はこのようにできていると

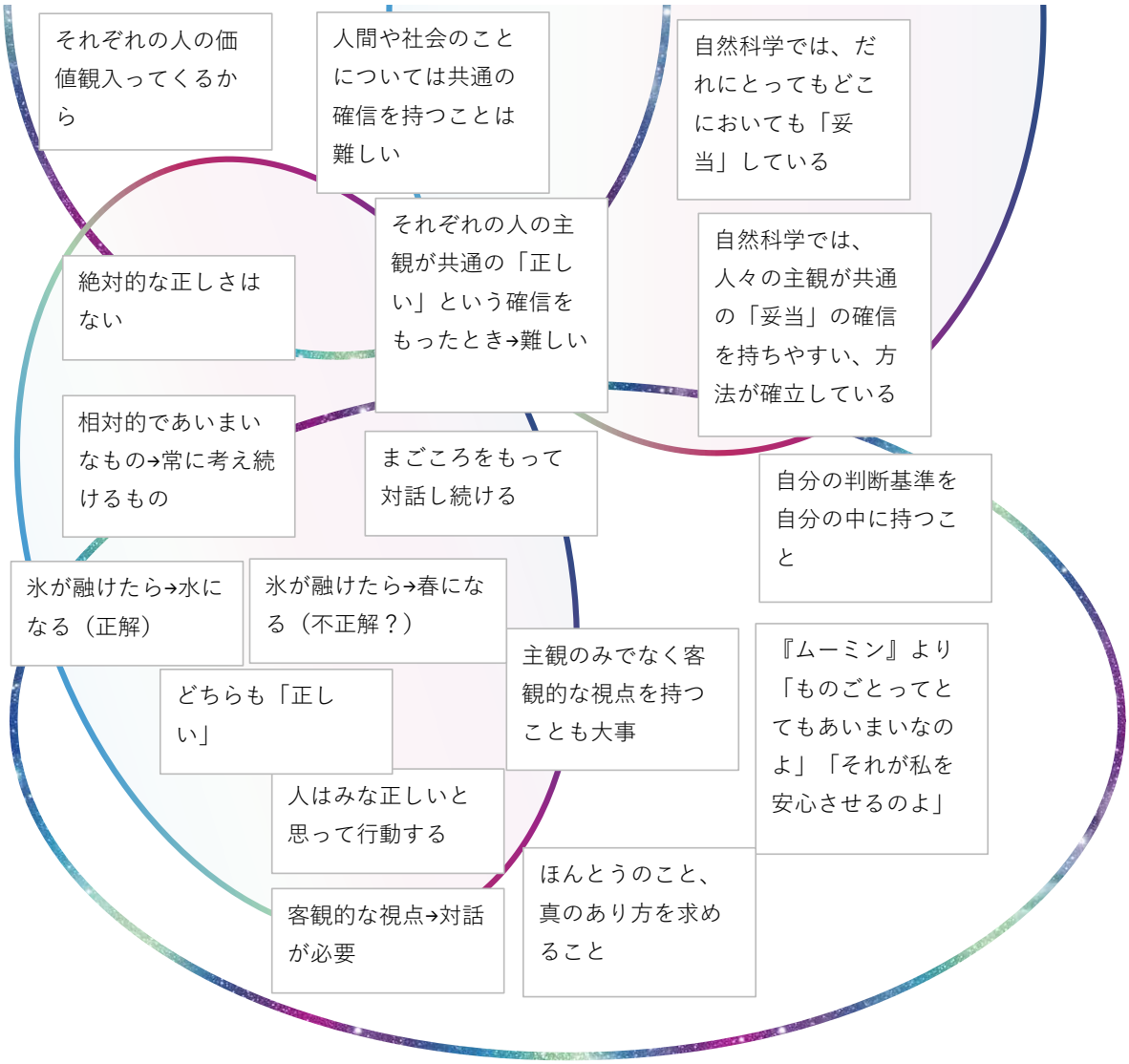
物理学などの自然科学→仮説、実験、検証により確かめる

「正義（justice）」は正しいか

数学は定義から始めて体系を組み立て、論理で証明する

学術論文は査読者がいて客観性を担保している

正しい正しくないは言えない


それぞれの人の価値観入ってくるから
人間や社会のことについては共通の確信を持つことは難しい
自然科学では、だれにとってもどこにおいても「妥当」している
それぞれの人の主観が共通の「正しい」という確信をもったとき→難しい
自然科学では、人々の主観が共通の「妥当」の確信を持ちやすい、方法が確立している
絶対的な正しさはない
相対的であいまいなもの→常に考え続けるもの
まごころをもって対話し続ける
自分の判断基準を自分の中に持つこと
氷が融けたら→水になる（正解）
氷が融けたら→春になる（不正解？）
主観のみでなく客観的な視点を持つことも大事
『ムーミン』より「ものごとってとてもあいまいなのよ」「それが私を安心させるのよ」
どちらも「正しい」
人はみな正しいと思って行動する
ほんとうのこと、真のあり方を求めること
客観的な視点→対話が必要